古高取通信

No.1

平成20年7月

古高取を伝える会会報

「古高取を伝える会」は、三月二十八日に設立総会を開催し、四月より活動を始めました。

高取焼発祥の地である直方市の、宅間・内ヶ磯窯の高取焼は、古高取と呼ばれ、日本の陶磁史の中で極めて重要な位置を占めるものです。

今後、古高取に関する資料の収集、研究等の推進や、関係資料等の発行、市内外への広報、及び、啓発活動、学校教育との連携による焼物教室の開催等の活動を推進していくことになります。

特に、高取焼資料館の建設の促進や、内ヶ磯窯の復元に向け、頑張って行きたいと思っています。

福岡県文化財保護課の副島邦弘さんの「筑前内ヶ磯古高取の魅力」と題する設立総会記念講演では、古高取の魅力の一片に触れ、設立の想いを新たにしました。

古高取の魅力を伝える

会長　能間瀧次

「古高取を伝える会」の皆様には本会の事業にご支援・ご協力を賜り心から御礼申し上げます。

三月に設立総会を開催し、早、四ヶ月が経過しようとしております。本会組織の立ち上げにおきましては、多くの皆様方のお力添えにより、二百名近い会員の参集を得ることができ、感謝致しております。

この間、四月初旬のチューリップフェアーでの呈茶サービス、六月、新入小学校の焼物体験教室への協力、七月に入り講師を招いての学習会等着実に活動を実施しているところであります。

高取焼発祥の地である直方市の宅間・内ヶ磯の高取焼は、「古高取」と呼ばれ、陶磁史の中でも極めて重要な位置を占めるものです。本会はこの古高取の魅力を地域社会へ発信・啓発活動を行なうこと、つぎの世代に継承していくこと及びこれらの活動を通じ直方のまちづくりに貢献することを目的として、諸事業を計画し積極的に取り組んでいるところです。

私は、小学6年の時、遠足で登った福智山への登山口、内ヶ磯で陶器片を見つけ持ち帰りました。小さな陶片ですが、藁灰釉が還元焼成され、青白く輝くそれは私にとっては、なんとも言えないとても素晴らしい色合いで、魅力的なものでした。現在も時々机の引き出しから出しては見つめ触り、四〇〇年前の陶工達の生き様に思いを巡らし、古高取の魅力を探っております。

近年の研究で、唐津や萩などとされていた茶碗や器が、実は古高取であった事が判明し、陶器の世界で古高取の占める地位は益々重要になってきています。

発足一年目、当面は勉強を重ねて会の宝物を蓄積していくといった地道な取り組みが必要な時期であります。

私達は、高取焼発祥の地に生まれ育ったことを誇りにして、多くの方々と直方の文化の継承・創造・発展に寄与することが出来たらと願っています。

今後とも、古高取を伝える会へ、ご支援・ご協力を賜りますようどうぞ宜しくお願い致します。

役員体制

役員は下記のとおり選出されました。

会長	能間　瀧次
副会長	鷹取　宗恵
	永富セツ子
理事	石光　秀行
	梅本　靖
	荻迫喜代子
	小山　亘
	隅田　知明
事務局長	下田　克彦
書記	末松登志子
会計	宮園裕美子
監事	有吉　輝祐
	東　陽一

活動の四本柱

今年度は左記の四本を活動の柱として、会を運営します。

一．活動の拠点を創る
二．古高取の知識を深める
三．古高取の魅力を伝える
四．次世代へつなげる

専門部会へのお誘い

会の運営を円滑に進めるため次の部会並び実行委員会を設置しました。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

子供焼物教室部会
部会長　永富　セツ子

〈主な活動〉
子供焼物教室

古高取が直方の宝であり文化遺産だということを子供たちに継承し、焼き物教室を市内の小学校で開催していく部会です。
子供たちが作ったお抹茶茶わんでお茶会ができればいいなと思ってます。
今、各学校での焼き物教室に関わるスタッフを早急に募集してます。
子供たちと茶わん作りを楽しみませんか。是非、スタッフに加わってください。お待ちしてます。

学習部会
部会長　梅本　靖

〈主な活動〉
古高取に関する学習・講演会等

直方発祥の高取焼についてはまだ多くの方が特に直方においてもよく知られてはいません。
江戸時代の初期に始まった高取焼でも最も古い、直方の古高取を会員の皆様とともに勉強し、知識を深めて郷土の誇りである古高取を理解していただこうと思い、内ヶ磯窯跡からの出土品の説明会、古高取の作品にふれるツアー、その他勉強会などを行っていきます。
これらの催しにはぜひ大勢の会員の皆様のご参加をお待ちしています。また学習部会に入ってお手伝いをしていただける方もお待ちしています。よろしくお願いします。

広報部会
部会長　石光　秀行

〈主な活動〉
会報、パンフレット、ホームページ

私たちは、「古高取を伝える会」の四本柱の一つである「古高取の魅力を発信」する為に、古高取のパンフレット作成、会報発行、及び既存のホームページの充実に重点を置き、広報部会を立ち上げました。
しかし、より魅力ある発信を行う為には、多くの皆様のご協力を必要としています。ホームページやデザイン、広報活動に興味のある方、アイデアのある方、一緒に作業しませんか。皆様のご参加を心よりお待ち致しております。どうぞよろしくお願い致します。

みんなのお宝「古高取」展（仮称）実行委員会

九月末～一〇月初めに、古高取の出土品等を集めた展示会等を開催したいと思っています。詳しい内容や参加費用等は別途お知らせ致します。現在、実行委員を募集していますので、どうぞご参加ください。よろしくお願い致します。

紅葉ウォーキング
実行委員会

宅間窯跡の清掃・内ヶ磯窯跡探訪、絶叫大会、団子汁、等を紅葉の季節に行いたいと思っています。スケジュールや参加費用等、詳細は別途お知らせ致します。現在、実行委員を募集していますので、どうぞご参加ください。よろしくお願い致します。

平成２０年（２００８年）年間スケジュール

月	全体行事	学習部会	広報部会	焼物教室部会	その他 関連行事
4	チューリップフェアー（呈茶）				能間瀧次焼物展示会
5					
6				小学６年対象焼物教室 １日（日） 新入小学校	７日（土） 蛍と小さな音楽会
7		２１日（月） 第１回　学習会 内ヶ磯窯跡出土品の説明会	会報１号発刊	小学６年対象焼物教室	
8	親子焼物教室				
9			パンフレット作成	小学６年対象焼物教室	２８日（日） 演劇公演「高取焼誕生物語」
10	高取焼出土品展示（谷尾美術館） 焼物教室（一般対象、時期は10月～翌年2月の間）				
11	窯跡清掃・紅葉ウォーキング	美術館見学及び講演会	会報２号発刊		
12	忘年会				
1	新年会				
2		第２回　学習会			
3			会報３号発刊		

古高取から遠州高取へ

副島邦弘

高取焼の様式の変化については、一般的に古高取と遠州高取に区分されている。

古高取は、白旗山窯以前の窯で焼かれた製品をいうが、慶長後期から元和をはさんで寛永初期までで、永満寺宅間窯・内ヶ磯窯・山田窯の製品を総称していうわけである。

その特徴は、桃山風の作為性に満ちた力強く豪快な造形を特徴とし、軽快で繊細瀟洒な感覚をもつ白旗山窯、およびそれ以降の窯の製品とは際立った違いをみせている。

釉薬も藁灰釉などや土灰釉などの灰釉系のものと、飴釉などの鉄釉系のものを単独に用いるか掛け分けや重ね掛けの技法で使用し、高台回りは露胎にして、比較的粗い粒子の胎土を意図的に見せる。これらの技法および焼き上がりは、最初期の唐津焼である岸岳系の飯洞甕窯や帆柱窯などの製品と一部できわめてよく似た特徴を持ち、近年まで古唐津として伝えられてきた伝世品も少なくない。

高取焼の中で、遠州好みといわれるものは、白旗山窯期が該当するもので、筑前黒田家では、長政が元和九年（一六二三）八月に没し、嫡子忠之が相続しこの時に、小堀遠州は伏見奉行となり、生涯この職を勤める。将軍徳川家光の茶の師匠として小堀遠州が手解きを行った時でもあった。

忠之が相続に際して、黒田長政の遺言として、「家中奉公人之内放扶持帳扣」というものが吉田家文書の中に残されている。

それによると、

一、手塚孫大夫（辰連）、水雪、可放扶持事
一、大野小八郎ニハ知行三百石
程遣、菅主水下（重俊）ニ可入置事
一、馬杉平三郎、可放扶持事
一、黒田伯耆守隠居分之知行取上、両人之子共之かけニ可有之由可申事
一、荒木清兵衛、可放扶持事
一、古江六左衛門儀、召直候時の様子長左衛門・主水（菅重俊）能存候間、寄前約束之趣無相違様ニ仕、切米を遣、親子共ニ構候所をさし候ハて暇可遣事
一、坂本角右衛門儀ハ、福岡之屋内闕所仕、扶持を可放事
一、山国勘兵衛儀、遂穿鑿可有成敗事
已上
元和九年
七月廿七日　長政　御書判
御印判
右衛門佐（忠之）殿

と書残している。

これには、高給取の武士達を除籍して、次代が使いやすい様にしている。

また翌年寛永元年には、神屋宗湛から唐物茶入”博多文琳“を献上させた。

これは長政の遺言であるとして、家督を相続した忠之が行った。この茶入を徳川将軍に見せている。

これには遠州が関与している。

また、この年八蔵父子が勘気に触れ山田村に移されている。その理由は八蔵長男八郎右衛門が忘郷の念断ちがたく帰国願いを出したことによる。忠之の逆鱗に触れて、禄を取り上げた上で蟄居を命じらている。

これは「高取歴代記録」による。

この時、内ヶ磯窯は五十嵐一党が守って、織部好みものを多くつくり出したことが理解でき、自由奔放さが統一された美意識に移行していく時期で、匣鉢を使用して、茶入や茶碗等の茶道具いわゆる茶陶として生きることを模索していた時期でもあった。

これと、黒田家内部の相続にともなう動きが考慮せられる。すなわち、内ヶ磯窯については、鞍手郡頓野村に位置するもので、その一帯が四男の高政、四万石の東蓮寺藩領となった。なお、三男長興をして秋月五万石として分離せられ、本藩の忠之は四十三万石となっているわけである。

これも内ヶ磯から白旗山に移動する原因の一つであったことは理解できる。

活動の記録

設立総会及び記念講演

〈平成二〇年三月二十九日（土）〉
場所：直方市中央公民館　三階
第三学習室
記念講演：「筑前内ヶ磯古高取の魅力」
講師　副島邦弘氏

多数のご出席ありがとうございました。新会への期待の大きさをあらためて認識させていただき身が引き締まる思いです。皆様のご期待にも添えるよう頑張りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

第一回　子供焼物教室

〈平成二〇年六月一日（日）〉
場所：直方市立新入小学校

会が発足してはじめての焼き物教室ですこし不安もありましたが、担当の先生方が熱心に関わっていただき無事終えることができました。子供たちが自分の作った作品を通して、古高取のことを伝えていってほしいと願ってます。スタッフのみなさん、担当の先生方お疲れさまでした。

能間瀧次氏作陶展

〈平成二〇年四月五日（土）～三十日（水）〉
場所：直方市歳時館

「古高取を伝える会」の能間瀧次さんが、三十年ぶりの作陶展を開催しました。今回は「古高取」の風合いを再現した作品など約百五十点の作品を展示。「古い陶器の持つ、わびさびの世界を感じ取ってもらえれば」と話していました。

チューリップフェアーで呈茶

〈平成二〇年四月五日（土）～七日（月）〉
場所：のおがたチューリップフェア会場内（遠賀川河川敷・展示庭園付近）

当会最初のイベントとして、チューリップフェアにおいて、呈茶サービスを行いました。最終日は雨天のため中止となりましたが、連日、千人を越える人が足を運んでくれました。
直方の古高取の魅力を少しでも多くの方に知っていただける機会となったと思います。また、お手伝いくださいました皆様には、心よりお礼申し上げます。

鉄の彫刻空間　現代美術展会場で茶会

〈平成二〇年六月二十二日（日）〉
場所：直方谷尾美術館

「古高取を伝える会」の小山亘さん、河面直人さん、他数名が、「鉄の彫刻家」で知られる福岡教育大学教授阿部守さんの鉄彫刻空間（作品）のなかでお茶会を開催しました。
現代アート作品のなかで「古高取」の持つ芸術面や文化面、最新性等の魅力を少しは感じていただけたのではないかと話していました。

〈掲載内容募集〉

「古高取」の魅力を発信するためのイベント情報など募集しています。掲載可能な情報等がございましたら、事務局までご連絡ください。

〈編集後記〉

二〇〇六年の高取焼開窯四〇〇年祭の活動を受け継ぎ、会の情報交換をより堅実にするため、「古高取通信」を発行することになりました。
古高取を伝える会は、世界に誇る古高取発祥の地であり、宅間窯跡・内ヶ磯窯跡の歴史遺産を見直し、それを誇りにすることから直方のまちづくりに参加していきたいと思っています。

「古高取通信」
会報・NO1

〈発行〉
古高取を伝える会
〈発行日〉
平成二〇年七月二〇日
〈現在の会員数〉
正会員　108名
賛助会員　83名
団体　8団体（11口）
〈事務局〉
〒八二二-〇〇二六
福岡県直方市津田町七-十四
TEL　〇九四九-二三-二三一一